

第43回水の都ひろしま推進協議会【議事録】

1 日 時

平成31年（2019年）2月22日（金） 10:00～11:20

2 場 所

中区地域福祉センター5階ボランティア研修室

3 出席委員

別紙参照

4 協議概要

(1) 開 会

(2) 議 事

「水の都ひろしま」推進計画の改定について

(発言の要旨)

《西名会長》

現行計画と比べて、今回の改定計画案は大分様変わりしていて、大変苦労したのではないか。改定計画案は現行計画と印象が大分変わっているが、なぜか。

《事務局》

今回の改定計画案は、現行計画と方向性は大きく変わっていない。資料1の「2 改定に当たっての主な課題等」にもあるように、現行計画には三つの事業区分について現状・課題などの総括的な説明がないので、改定計画案にはそれらを入れた。また、モデル地区で分かれているため、初見では分かりづらいことから、今回の改定を行った。

《西名会長》

現行計画の事業に重複事項が多く、整理し直したということか。

《事務局》

そのとおりである。

《西名会長》

改定計画案には現在の状況が整理されており、分かりやすくなっていると思う。

《鈴木委員》

改定計画案3ページの定期観光船・遊覧船の利用者数の推移を見ると、世界遺産航路の利用者は増加しているが、リバークルーズの利用者は減少している。これは運行された便数が少ないからではないか。この度の7月豪雨で砂が流れてきて河川が浅くなっている。しゅんせつをして川を深くしないと、水上交通は動かない。しゅんせつの要望は色々なところにいるが、お金の問題もあって難しい。河川はしゅんせつや流木の撤去や掃除が必要である。川底に流木があると、プロペラがぶつかって走らない。

組合で各自撤去しているが、間に合わない。三篠川の鉄橋の枕木が京橋川に流れてきて、チェーンソーで切って撤去したが、まだ川底に残っている。リバークルーズや水上交通の利用者を増やすのであれば、しゅんせつや流木の撤去が必要である。

《西名会長》

7月豪雨は甚大な被害をもたらしており、喫緊の課題である。この課題については記載してあるか。

《事務局》

改定計画案の14ページの具体的取組の中で、底質改善に関してしゅんせつの効果の検証については記載している。いただいた意見の反映については検討する。

《山田委員》

改定計画案の章立てについては、どこからの意見で変更したのか。また、資料3の現行計画に係る取組実施状況一覧は、改定計画の一部になるのか。また、今後、国・県・市ではこの計画をどう工夫して進めていくのか。

《事務局》

章立てについては、事務局が問題意識をもって見直しを行った。他都市等から推進計画の説明を希望されることが多いが、施策ごとの考え方が記載されていないため、説明し難く、分かりやすくしたほうが良いと思った。改定計画案については、国・県・市の関係課等から意見をもらい作成した。

資料3を改定計画の一部とするかについては、推進協議会において決めていただければと考える。今後の行政の進め方については、この改定計画が完成した後に協議をして進めていきたいと思う。

《阪谷委員》

広島市の立場として、計画の改定で大きくイメージを変更したことは三つの点から考えている。

一つ目は、水辺作りが全国的に進んできたこと、また、今回「かわまち大賞」に認定されたことである。広島市はポテンシャルが高く、先駆者として取組をさらに進化させていく時期にきている。

二つ目は、国・県・市で取り組んでいる計画の重要要素を取り込んで、水の都ひろしま推進計画を見れば、広島の水の都づくりがどのように進んでいるのかと分かるように整理する必要がある。

三つ目は、計画に参加する市民や団体がこの計画を見て、取組にどんなものがある、一緒にやっついていかないといけないものは何かと分かってもらうように整理する必要がある。

章立ての展開については、改定計画案の作成の出発点として、資料3の事業の点検を行い、数か月かけてヒアリングして整理した結果、取組ができているものとできていないものがあった。また事業の重複や類似が見受けられたことから、現行計画の章立ての展開がよいのか、ということになり、基本構想の「つくる」「つなぐ」「つかう」という基本方針に戻って整理したほうがよいのではと考え、章立てを整理した。

今後の進め方について、国・県・市の連携は重要である。国・県・市が協議会で出された問題をお互いが共有して、解決していくことが必要である。本協議会が色々な団体の代表者で構成されているというのは、素晴らしいことであり、各委員から出た意見を国・県・市で、どのように調整していくのか、水の都の取組にとってどうプラスにするのか、市民や観光客にどう還元していくかをうまく整理していくという意味でも、行政間の連携は重要であると考えている。

《西名会長》

かわまち大賞もあり、広島はどんなことをやっているのか全国的に注目されている。広島のを考え方を説明する際に、現行計画だと分かりづらく、説明しにくいということがあり、概念的な整理をしてとらえやすく改定計画をまとめたという理解だと思う。

《市川委員》

疑問点は山田委員と同じで、大体は解決した。改定計画案について、現行計画からかなり変更されていて当初は驚いたが、内容をみると整理されて分かりやすくなった。規則的に問題ないのであれば、賛成である。

しゅんせつ等、推進協議会でどうにもなるものではないものが多々あり、色々な主体が登場し、どこがやるのかというのが分からなかったが、改定計画案の「つかう」で推進協議会が主体でやるのが集約されており、「つなぐ」や「つくる」は他の部署と調整しながら行なうものとなっていて、分かりやすい。

ただ、どうやってやるのかということが気になる。しゅんせつなど、推進協議会でできないことについて、どう調整するのか。

《阪谷委員》

しゅんせつの問題については、行政が行うことである。個人的には、推進協議会の場ではなく、別の場で、意見に対してどう行政間で調整していくのかということを経験しないといけないと思っている。県や市など単体では解決できないこともあるため、国も入れた全体的な調整が必要になる。協議・調整の結果、うまく解決できそうであれば、推進協議会に報告できる。そうになると、推進協議会の存在意義が大きくなるのではと考えている。

《西名会長》

国・県・市との間でこんな話がでてくるよ、ということを経験してもらえたらと思う。場もつくりやすいし協議も進展しやすい。

《市川委員》

施策の柱について構想と改定計画の順番がずれているのが気になる。仕方ないとは思いますが、柱の順番は変更できないか。

《西名会長》

因果関係的には、「つくる」の後は「つかう」の順番だと思う。推進協議会的には「つかう」が重点的ではある。

《西名会長》

現行計画では、モデル地区における重点的なことを記載しているという特徴がある。改定計画案については、総合的な取組としては良いが、個別的なところがなくなったのがどうかと思う。また、「施策」という文言は、市が計画を作っているという印象を受ける。協議会は行政がやっているものではないので、「施策」という言い方ではなく、もっとソフトな言い方はできないか。

《市川委員》

個別計画ではどうか。他の章の名称には、「計画」という文言が入っているが、この章には入っていない。

《西名会長》

個別計画でいいと思う。タイトなスケジュールなので難しいかもしれないが、配慮してもらえたらと思う。

《市川委員》

マップを作り変え、改定計画に入れたいのか。今のマップは15年前から変更していない。

《事務局》

マップは推進計画には掲載されていない。

《山田委員》

マップは構想に掲載されており、今回の改定はあくまで推進計画である。

《市川委員》

前回の26年度の推進計画策定の際に変更すべきだった。

《西名会長》

そう思う。

《隆杉委員》

太田川デルタがどこにあるか分かるように、全体を眺めるためにマップが必要だと思う。

《市川委員》

15年経過しているので変わった部分もある。

《西名会長》

マップについて、細かい部分はいいが、広島市として概略の部分はほしい。

《市川委員》

外部の人は川の名前もわからない。間に合うのであれば作成したほうがいいと思う。改定計画の冊子に盛り込めなくてもいい。後からでもいいので。

《西名会長》

なぜこんなにスケジュールがタイトなのか。

《阪谷委員》

改定計画案を作成するのに時間がかかってしまったが、30年度に改定し、31年度から改定した計画に基づいて事業をスタートすることとしている。

マップについては、確かに、外部の人が見てどの川がどうなのか、分かるほうが良い。計画に掲載するものは、川やオープンカフェ等の位置など、大きなくくりのものを作成してはどうか。構想にあるような本格的なマップであれば、協議会で協議しながら時間をかけて作成する必要がある。

《西名会長》

可能な範囲でマップを作成していただきたい。

時間がタイトで難しいのかもしれないが、今回の意見を踏まえ、可能な限りで計画案を修正し、次回の協議会で提示してもらいたい。

(3) 閉 会

出席委員

| 分野 | 所属 | 役職 | 氏名 | 出欠 | 備考 |
|--------|--------------------|----------------------|--------|----|----------|
| 有識者 | 広島大学大学院 | 教授 | 西名 大作 | ○ | |
| | 比治山大学 | 教授 | 山田 知子 | 欠 | |
| | 近畿大学 | 准教授 | 市川 尚紀 | ○ | |
| 市民団体等 | ポップラ・ペアレンツ・クラブ | 幹事 | 隆杉 純子 | ○ | |
| | 京橋川かいわいあしがるクラブ | 代表 | 山本 恵由美 | ○ | |
| | 広島市内水面漁業協同組合 | 代表理事組合長 | 鈴木 修治 | ○ | |
| 経済・観光等 | (一社)広島県観光連盟 | 専務理事 | 梅木 敏明 | ○ | 代理：奥野 弘展 |
| | (一社)広島県生活衛生同業組合連合会 | 会長 | 佐々木 克己 | ○ | |
| | (一社)日本旅行業協会中四国事務局 | 事務局長 | 辻 孝和 | 欠 | |
| 行政 | 国土交通省 | 中国地方整備局 企画部広域計画課長 | 山田 明 | ○ | |
| | | 中国運輸局観光部 観光地域振興課長 | 出口 敦 | ○ | |
| | 広島県 | 土木建築局 河川課長 | 木村 成弘 | ○ | 代理：下隠 俊作 |
| | 広島市 | 経済観光局 観光政策部長 | 阪谷 幸春 | ○ | |